



いわて生活協同組合

# 社会活動・環境活動報告書

## 2013年版

- ◆2012年度いわて生協の事業と活動
- ◆2012年-2013年環境活動報告書



いわて生協の震災復興・支援活動の記録は別冊で発行しております。あわせてご覧ください。

# Contents

## 「がんばろう！岩手」被災地支援活動 3

- 組合員によるボランティア活動
- 事業を通じた支援



## いわて生協の事業の到達点 13

- 店舗 ● 共同購入
- 共済 ● 葬祭「セリオ」
- 介護・福祉
- 住まいと暮らしのサービス



## 地産地消・産直運動 2012年度の到達点 5

- 商品の利用普及による復興支援
- 顔とくらしの見える産直運動



## 2012年—2013年環境活動報告書 17

- 環境方針
- 地球温暖化防止対策
- おもな取り組みと成果
- リサイクルと再資源化



## 組合員による多彩な活動 9

- くらしを守る運動
- 助け合いの活動
- 子育て協同
- 平和を守る運動



## いわて生協の概況 25

- 組織の状況
- 決算概況
- 事業所一覧



## 2020年ビジョン～私たちのありたい姿～

### 「助けあい、支えあい、ともにつくるくらしの安心」



1. 私たちは、社会の大きな変化の中で、ふだんのくらしにいっそう役立つ事業を協同の力で広げます。
2. 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人々が支えあいつながる地域づくりをめざし、「明るく！元気に！楽しく！感動する活動」をすすめます。
3. 私たちは、地域で信頼され、評価される元気な組織をつくり、健全経営を維持発展させます。

# 人が大切にされ、安心して暮らせる社会をめざして、力を合わせてまいりましょう



いわて生活協同組合  
理事長 飯塚明彦

未曾有の大災害となった東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から早2年が経過しました。この震災により、いわて生協も12億円もの大きな被害を受け、急きょ「震災復興2か年計画」を策定し、2011年度・2012年度の2年間、被災者・被災地の復旧・復興支援といわて生協の経営再建に全力で取り組んでまいりました。

被災地支援では、92回3,500名におよぶバスボランティアの実施、615回6,600人参加の「ふれあいサロン」の開催、14万食の食事提供、5,000着の礼服をはじめとする物資支援、6,500件16億円を超える共済金・異常災害見舞金のお支払い、被災メーカーや被災者グループの商品供給支援など、いわて生協21万人組合員と2,000名常勤者の協同の力で継続してまいりました。

また、事業経営面においては、2011年度は4億7千万円の赤字予算という大変きびしい経営見通しでのスタートでしたが、2011年度・2012年度ともに黒字決算とすることができ、震災の被害・影響を克服し、新たな一歩を踏み出すための経営基盤を確立することができました。日本生活協同組合連合会をはじめ、全国の生協や団体・お取引先のみなさまの多大なご支援・ご協力に、組合員を代表し、あらためて深く感謝申し上げます。

東京電力福島第一原子力発電所事故は、取り返しのつかない甚大な被害をもたらしました。事故の収束の見通しもいまだ立たず、汚染水の処理もままならない原発は、決して人類と共存できるものではありません。にもかかわらず、政府は原発再稼動にむけて突き進もうとしていますし、世界への輸出も積極的に推進しようとしています。

いわて生協は、2011年9月に「原発から撤退し、再生可能な自然エネルギーを中心としたエネルギー政策に転換すべき」との見解と方針を決定し、事業面においても「原発に依存せず、CO<sub>2</sub>削減も図る」ことを決意し、さまざまな取り組みをすすめてまいりました。その結果、2012年度の電気使用量は2010年度比で16%削減することができ、CO<sub>2</sub>は2005年度比14%削減しました。

震災からの復興や原発問題はもちろんのこと、格差と貧困の拡大、消費税増税や社会保障改悪、TPPへの参加、憲法改悪など、私たちのくらしと子どもたちの将来に大きな影響を与える問題も山積みとなっています。このような社会の大きな変化の中で、誰もが安心して暮らせる社会・地域をめざして、協同組合の役割を果たしていくために「いわて生協2020年ビジョン」を策定し、その実現のための最初の3か年の計画を「第7次中期計画（2013～2015年度）」として具体化しスタートいたしました。

みなさまには、いっそうのご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## コープ・ボランティアセンター 109企画に4,647人が参加

「自分も何か被災地の手助けをしたいけれど、一人ではどうしたらいいか…」という人に活動してもらえよう、2011年5月いわて生協が開設した「コープ・ボランティアセンター（CVC）」。バスボランティアや復興応援商品へのシール貼り、手作りカードとお菓子をセットする作業など、2年間で109企画にのべ4,647人のボランティアが参加しました。



バスボランティアは陸前高田市と大槌町を継続支援。

## 「ふれあいサロン」は毎月56回開催

2011年6月、陸前高田市の避難所から始めた「ふれあいサロン」。要望を受けて徐々に開催が広がり、2012年度は野田村、宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、盛岡市、滝沢村で毎月、63仮設住宅・地域を対象に56回開催。この2年間ではのべ615回開催し、6,599人が参加、ボランティア参加は3,010人でした。



陸前高田市竹駒町滝の里仮設住宅集会所での「ふれあいサロン」。

## 「いっしょにがんばろう」の思いをこめ 手作りカードをプレゼント

「忘れないで思っているよ。いっしょにがんばろう」の思いを届けようと、七夕、クリスマス、ひなまつりには手作りカード（計1万3千枚）を贈る取り組みを実施。全国の生協にも協力してもらい、沿岸被災地の福祉施設などでつくったお菓子を添えてプレゼントしました。



組合員が集まってカードをつくる取り組みも。



手作りのカードに手紙とお菓子を添えて。

## 被災地からのリフレッシュツアー

被災地を離れてリフレッシュしてもらおうと、宮古・釜石・けせん・久慈コープや「ふれあいサロン」が主催し「リフレッシュツアー」を実施。内陸の生協店舗での買い物と観光をセットにしたバスツアーや温泉へのバスツアーなど、27企画に858人が参加しました。



釜石コープ平田こくぶ委員会主催の「祝賀ツアー」。深川下り&コープ一関コルザでのお買い物

## 被災者の集まり・活動へ補助

みんなで集まっておしゃべりしたり、何か活動することが気晴らしや生きがいづくりになればと、5人以上集まったのサークル活動や、お茶飲みなどの費用を補助。これまで36グループに合計217万円を補助しました。



「ほぼ毎日集まっているんですよ」と、宮古市弘川仮設「いきいき教室」のみなさん。

東日本大震災支援募金 5,687万1,153円

（日本生協連からの支援金を含む）

2,000万円を岩手県へ義援金として贈呈（2011年5月）。残りを「復興支援基金」として支援活動に活用しています。

### 2012年度「復興支援基金」活用状況

支援内容	費用
被災地でのふれあいサロン（バス代、運営費など）	1,040万9,140円
被災地でのお楽しみ企画（交流会、バスツアーなど）	266万4,214円
グループ活動費用補助（209件）	191万5,865円
カードプレゼントや移動店舗車両購入支援募金費用	265万1,566円
CVCバスボランティア（バス代、ニュース費用など）	302万9,909円
被災地生協まつりや復興まつり	523万6,345円
炊き出し（運動会、夕涼み会、年末お振る舞いなど）	157万9,941円
被災地の手作り品販売支援（送料、資材など）	43万8,489円
計	2,792万5,469円
累計（2011～2012年度）	4,740万 622円

「被災地の生協」として息長い支援活動をすすめていくことを2012年6月の通常総代会で決め、組合員活動やコープ・ボランティアセンターの活動、そして事業での支援を強めました。

## 移動店舗「にこちゃん号」を 組合員と全国の生協の募金で運行

買い物支援として、要望が強かった移動店舗「にこちゃん号」の運行を2012年6月から宮古地域で、10月から釜石地域で、11月からけせん地域でスタートしました。一日当たり250人、2012年度はのべ3万9千人にご利用いただき、「来てくれてうれしい」ととても喜ばれています。この移動店舗は、組合員と全国の生協・団体からの募金3,720万円で実現。2013年5月11日からは4台目をけせん地域で運行し、4台で仮設住宅59か所(4,160戸)をまわっています。



買い物が不便な地域で喜ばれている移動店舗「にこちゃん号」。

## 宮古市・山田町で 無料お買い物バスを運行

2012年7月からは、日本生協連の支援で「無料お買い物バス」を宮古市・山田町で運行。2012年度は、9コースで仮設住宅64か所2千世帯とその周辺の買い物を支援し、のべ4,400人の利用がありました。



「無料なのがうれしい」「車を持っていないので助かる」と喜ばれています。

## 個人宅配「被災者支援サービス」を延長

買い物に出かける必要がなく、カタログを見て買い物ができる共同購入（個人宅配）も、被災地の暮らしを支える事業です。個人宅配の配達手数料を優遇する「被災者支援サービス」の受付期間・適用期間を延長し、利用おすめを継続して取り組みました。2012年度の沿岸地域での加入は4,455人あり、仮設住宅での利用は2,611



戸（仮設住宅の19%）、被災者支援サービスは5,145人に適用しました。

「自宅まで商品が届く個人宅配は便利」と喜ばれています。

## お知らせ活動を継続し、 共済金・お見舞金お支払い

共済事業では、震災による共済金・お見舞金のお知らせ、手続きに引き続き取り組みました。震災を原因とした共済金・お見舞金のお支払いは323件5,529万円あり、2年間の合計は6,545件16億1,589万円（支払額の約5割）となりました。



店舗での相談会でもお知らせを継続。

## 被災した生産者・メーカーを支援

商品の利用を広げることで被災地の生産者・メーカーを支援し、復興を応援しようと取り組んできました。被災メーカーの製造再開品の利用普及（3億1千万円）のほか、共同購入では「東北応援フェア」や「ふくしま応援ボックス」も企画しました。

特に、壊滅的な被害を受けながらも生産者の協同とがんばりで復活した「産直アイコープ真崎わかめ」は、店舗・共同購入、そして組合員活動でも積極的におすすし、2012年度の利用は震災前（2010年度）の1.5倍となりました。



組合員の募金で贈ったトラックと、田老町漁協青野漁養殖組合のみなさん。

## 商品販売で収入を支援

被災地の生業づくりに少しでも貢献しようと、仮設住宅のグループの手作りの品や被災地の福祉施設、復興支援団体の商品を、店舗・共同購入、組合員の活動の場やイベントで販売。また、全国の生協にも紹介し、多数ご利用



いただきました。この2年間の販売支援は、68,750点1,904万円となりました。

店舗では、3月・9月にボランティアの組合員が商品を紹介し、利用を呼びかけました。

10品目を共同開発し、開発商品の供給高は14億8千万円に



アイコープ商品・アイスタイル商品は、いわて生協が独自に開発、供給している商品です。できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内の工場で製造（県内メーカーと共同開発）しています。東日本大震災後は特に、「地場産品の利用を広げることで、岩手を元気にしよう」と取り組んできました。

2012年度は10品目を開発し、アイコープ・アイスタイル商品全体の供給高は14億8千万円。震災によって30品目が製造中止・休止とならざるをえなかったことから、震災前の15億8千万円にはまだ届きませんが、少しずつ商品が復活し、2011年度からは1億円増加しました。

2012年度のアイコープ・コープ商品供給実績  
(2012年3月21日～2013年3月20日)

分類	部門供給高	アイコープ・アイスタイル商品供給高	その他コープ商品(日生協、サンネット等)供給高	コープ商品構成比
農産(野菜)	24億6,454万円	3,411万円	—	1.4%
水産	38億2,762万円	1億6,285万円	4億5,845万円	16%
畜産	27億6,325万円	8,091万円	2億4,231万円	12%
日記	62億 336万円	9億3,917万円	12億7,816万円	36%
米	5億6,916万円	1億4,250万円	—	25%
食品類	26億1,249万円	9,771万円	9億2,120万円	39%
菓子	25億9,762万円	976万円	5億4,186万円	21%
酒	10億6,445万円	93万円	1億1,068万円	11%
トイレタリー	8億4,554万円	996万円	1億8,122万円	23%
生活用品	3億5,803万円	165万円	4,395万円	13%
合計	233億 604万円	14億7,955万円	37億7,782万円	23%

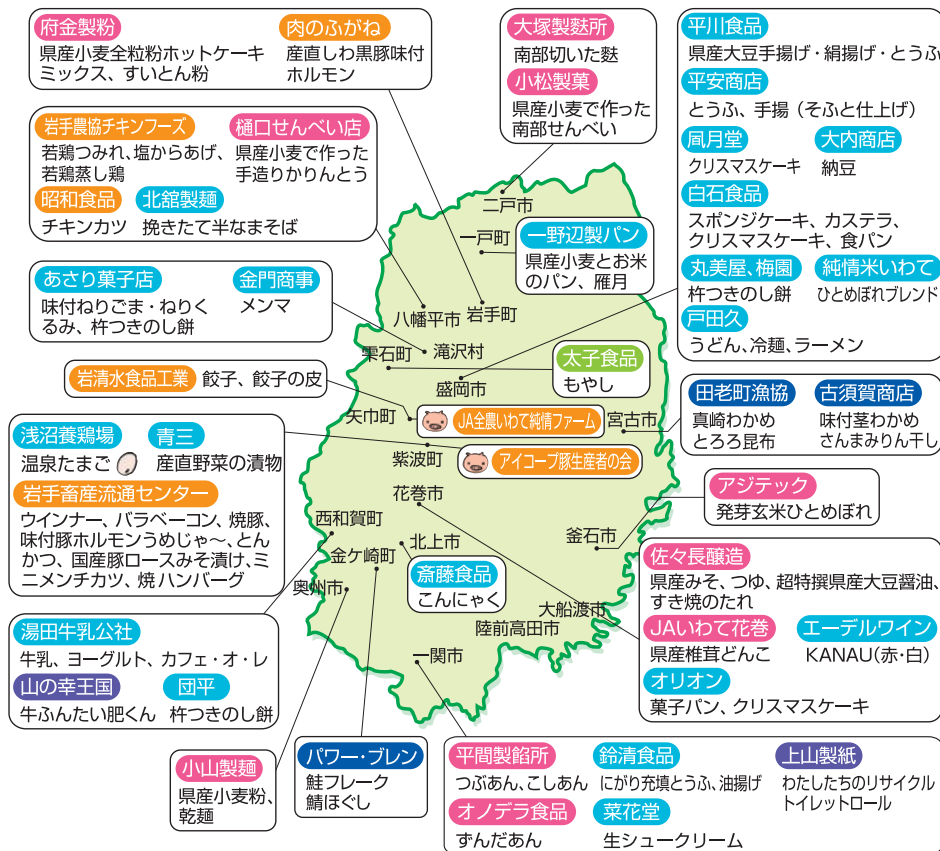
※日記は、朝配達牛乳除きの実績です。

※酒・生活用品は共同購入除きの実績です。

地元メーカーとの共同開発マップ(2013年4月時点)

商品開発・利用普及で支援

被災したメーカー・生産者との共同開発は、「アイコープ赤魚塩麹漬・目抜塩麹漬(石巻市・佐勇水産)」、「アイコープ宮古水揚げのさんまでつくったさんま上乾みりん干(宮古市・古須賀商店)」、「アイコープ根昆布入りとろろ(宮古市・田老町漁協、震災で製造中止となっていたものを再開)」の4品目で実施。利用おすすすめも、組合員と一緒に力を入れて取り組みました。



## 復興支援をかけた行政とも協力 「地産地消フェスタ」に約7万人が来場

2012年度も大震災からの復興支援をかけた、各広域振興局の協力・参加も得て沿岸被災地から多数出店いただき、「地産地消フェスタ」を開催。ベルフ牧野林（滝沢村3回目）、コープアテルイ（奥州市5回目）、コープ一関コルザ（8回目）、マリンコープドラ（宮古市3回目、「復興まつり」として開催）の4会場にのべ284社・団体が出店、計7万人が来場しました。どの会場でも出店者の復興をめざす姿が来場者に感動を与え、「商品を利用することで支援しよう」の思いを広げました。



2万1千人が来場したコープアテルイでのフェスタ。

また、県内各地域（コープ）での生協まつりも、被災地をはじめ地元のメーカー・団体に出演いただいて開催、1万4千人が参加しました。



北上コープの生協まつり（2012年9月30日）。

## マリンコープドラに「復興商店」常設

被災地のメーカーの製造商品や福祉施設商品、仮設住宅のグループなどの手作り品、復興支援団体の商品などを集めた「復興商店」を2012年6月よりマリンコープドラ内に常設。沿岸12市町村42社・団体からスタートしましたが、製造再開したメーカー・団体の商品を随時導入し、商品を通じた情報発信の場にもなっています。



マリンコープドラに常設している「復興商店」。

## 3店舗で開催「みやこうまいもの市」

「みやこうまいもの市」は盛岡地域の3店舗（ベルフ仙北・ベルフ青山・ベルフ牧野林）で7回開催し、宮古を中心とした商品普及の場となってきました。参加は震災前の16団体にはまだ戻りませんが、2011年度より2団体増え、11団体となりました。



ベルフ青山での「みやこうまいもの市」。

## 奥州市での「あべじゃネットフェア」

「あべじゃネットフェア」は、県南地方の障がい者モノづくり施設（40施設）で構成する「あべじゃネット」と岩手県県南広域振興局、いわて生協が共催し、生産品の販売や情報発信を行っています。2012年度は7回開催し、12施設が参加しました。



「あべじゃネットフェア」はコープアテルイで開催。

## 2店舗で開催「にしわが山の市場」

4年目となった「にしわが山の市場」は、7団体が出店し2回開催。ベルフまつぞのに加えベルフ牧野林でも行い、西和賀の産品をより多くの方に知らせ、利用いただくことができました。



ベルフ牧野林での「にしわが山の市場」。



### 県内32団体と産直提携し、供給高は25億円に

#### いわて生協の 産直三原則

- 1 産地と生産者が明確であること
- 2 栽培、飼育方法が明確であること
- 3 組合員と生産者が交流できること

#### いわて生協 産直基準

- 1 組合員の参加を強め、組合員の願いを商品づくりに反映させます。
- 2 「地産地消」の取り組みを強め、岩手の農林水産業を守り発展させることに貢献します。
- 3 組合員と生産者が自立・平等の立場で、お互いに発展できることをめざします。
- 4 産地、生産者、生産・流通方法を明確にし、情報を公開します。
- 5 生産方法などを記録し、定期的な点検・検査を行います。
- 6 後継者育成や、環境負荷低減（農薬の削減など）を支援します。

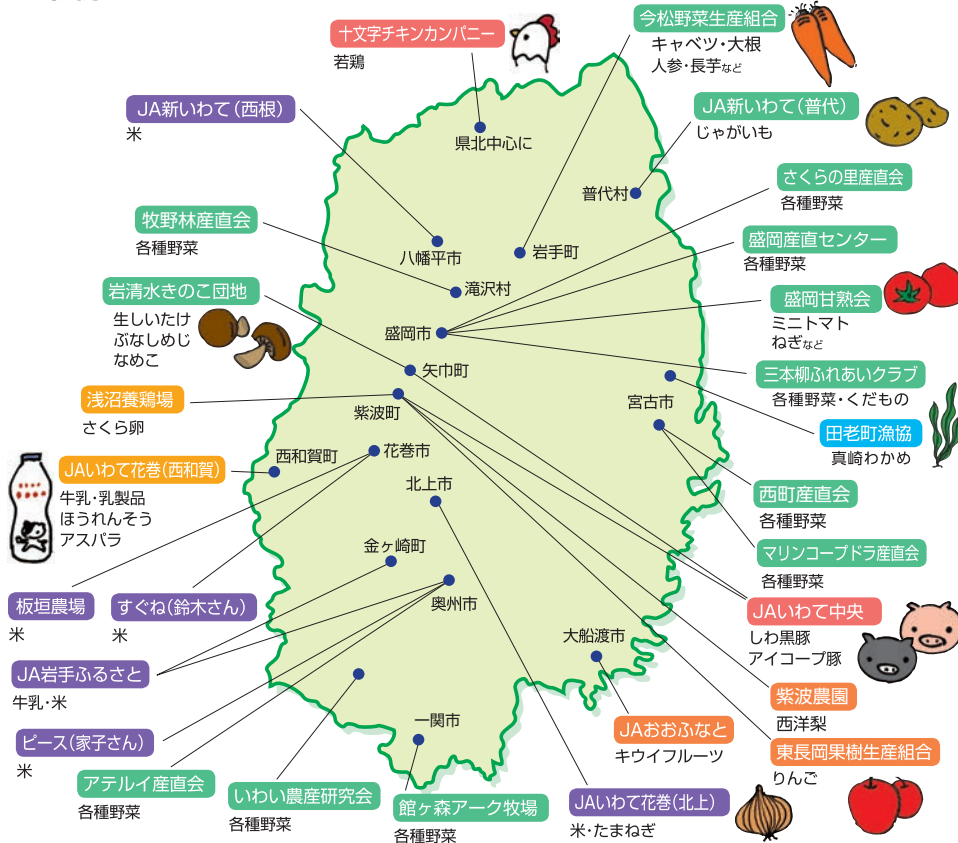
#### 2012年度の産直品実績 (2012年3月21日～2013年3月20日)

分類	部門供給高	産直品供給高	産直品 構成比
①果物	13億3,267万円	5,396万円	4%
②野菜	24億6,454万円	5億9,771万円	24%
農産(①+②)	37億9,720万円	6億5,167万円	17%
③水産	38億2,762万円	5,507万円	1%
④畜産	27億6,325万円	7億1,777万円	26%
⑤日記	64億6,962万円	8億2,985万円	13%
⑥米	5億6,916万円	2億7,924万円	49%
①～⑥合計	174億2,685万円	25億3,359万円	15%

※農産（果物・野菜）は、県内の産直品（顔とくらしの見える産直品）の実績です。

※日記は、朝配達牛乳含みの実績です。

産直提携マップ (2013年4月時点)



産直野菜は「農薬使用基準」を定めています

排除農薬 使用禁止する14農薬	排除目標農薬 排除に向けて計画的に努力す7農薬
NAC、ベンゾエピン、ジメトエート、2.4PA、ジネブ、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、カルベンダゾール、マラソン、クロロピクリン	DDVP、キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン



## 生産者の被害・実情を知り伝え、利用を呼びかける取り組みを継続

震災や放射能汚染の被害・影響を受けた生産者・メーカーを応援する取り組みを継続。「がんばろう！岩手 みんなで応援商品」をコープごとに設定し、産地見学会や学習会・交流会、生協まつりや店舗「産直収穫祭」（前年比106%の利用）でのおすすめなど、一年を通して取り組みました。「初夏のコープのつどい」「秋のコープのつどい」（計1万3千人以上参加）でも、生産者の実状を知る取り組みや生産者との交流、レシピ紹介、共同購入利用登録おすすめなど、多彩な活動が行われました。



盛岡コープでは「産直収穫祭」で産直素材をおすすめ。震災時は鶏の飼料も不足しました。

## 38年の産直の歴史がある田老町漁協を継続して支援

大震災で壊滅的な被害を受けた田老町漁協への支援を継続。生産者の団結とがんばり、そして組合員の支援で2012年4月に「産直アイコープ真崎わかめ」が復活。コープのつどいなどでの組合員のおすすめ活動や、店舗・共同購入での利用普及の取り組みにより、2012年度の利用



は震災前（2010年度）を大きく上回りました（151%）。

真崎わかめ復活を知らせ、利用を呼びかける盛岡南コープの組合員さん。

## 紫波農園との産直がスタート

新たに、紫波農園（紫波町）とJAいわて中央と西洋梨の産直提供協定を締結、産直ラ・フランスの供給をスタートしました。県内での果物産直は、東長岡果樹生産組合のりんご（紫波町）、JAおおふなどのキウイフルーツに次いで3つめです（個店産直での取り扱いを除く）。



2012年10月4日、いわて生協・紫波農園・JAいわて中央が調印。

## あらためて生協牛乳のよさを伝え、利用を広げました

生協牛乳の殺菌温度を30年ぶりに変更。あらためてそのよさを伝えようと、牛乳委員を中心に学習し、「秋のコープのつどい」ではほぼ全会場で学習と試飲を行いました。また、牛乳委員による料理教室や店頭でのおすすめ活動なども行い、朝配達牛乳の新規利用・増量や共同購入利用登録など124件につなげることができました。



水沢コープ・上姉体公民館での「秋のコープのつどい」でも牛乳試飲を実施。

## 公開安全確認会・業務確認会を実施

産直品の栽培方法や飼育方法など、生産の約束事が守られていることを組合員も一緒に確認する「公開安全確認会」。10年目となった2012年度も、31産地で組合員135人の参加で行われました。また、「業務確認会」は9事業所・部門で行われ、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを確認していただきました。



今松野菜生産組合（岩手町）の公開安全確認会には、釜石コープ組合員が参加。

## 交流を通し、生産者の苦労や産直品のよさを実感

組合員・常勤者の産地訪問・交流活動は76企画を実施、1,850人が参加しました。「産地工場見学」（55企画1,135人）、「産直米交流」（4産地359人参加）などで生産者の苦労や産直品のよさを実感。「生協牛乳ふるさと訪問」（2企画43人参加）では交流の時間を増やし、好評でした。



親子で田植え、草刈り、稲刈りを体験し、生産者と交流。

## 消費税増税は許せない！

組合員のくらしを守る立場から消費税増税・社会保障改悪に反対する運動を積極的に展開。「消費税増税、私はいこう言いたい！」カードを2か月間で3千枚集め、国会議員へ被災地の声を届けました。



店舗ではコーナーをつくり「私はいこう言いたい！」カードを呼びかけました。

また、消費税増税法案成立後も、緊急学習会（6回380人参加）を開催し、他団体とともに「消費税増税ストップ7.1県民大集会（800人）」、「各政党の政策を聞く会」や学習会（3回335人）、自動車パレード、岩手県議会への請願など、増税反対の世論を広げるための運動にも取り組みました。2013年4月からは、「消費税増税中止を求める被災3県協同アクション」として、市町村議会へ請願（9市町で採択）。また、反対の声をはがきで集め、国会へ届けようと取り組んでいます。



「消費税増税ストップ7.1県民大集会」。いわて生協は、消費者の立場から増税反対を訴えました。



消費税増税の本質を「大企業やお金持ちの資産を増やすことがねらい」と指摘した森永卓郎さん。



2012年7月3日、他団体とともに岩手県議会へ請願。

## TPP参加反対運動を諸団体と推進

食の安全、食料・農林漁業、地域を守る取り組みとして、TPP（環太平洋経済連携協定）参加に反対する運動をすすめました。交渉参加表明に抗議する理事会声明を2回あげ、「TPP等と食料・農林水産業・地域経済を考える岩手県民会議」や「いわて食・農ネット」といっしょに、学習会や韓米FTA訪問団への代表派遣（1名）、「自治体・農協要請行動」に取り組みました。



岩手大学の横山英信教授を講師に、勤者向けの学習会も開催。

## 14市町村で「福祉灯油」を実現

価格高騰が続く灯油の安定供給と「福祉灯油」の実施などを求めて、岩手県への要請や、市町村長との懇談会での要請を行いました。こうした取り組みによって、沿岸12市町村を含む14市町村での「福祉灯油」実施を、2011年度よりも早い時期に実現できました。



2012年12月21日、異常値上げに抗議する緊急灯油集会と岩手県への要請を実施。

## 15市町村で首長懇談会を開催

住みよい地域づくりをめざし、初開催の洋野町をはじめ15市町村で首長懇談会を開催。「自然エネルギーの活用」と「福祉灯油の実施」「被災者への医療・介護減免措置の延長」をおもなテーマに懇談しました。



2012年12月7日、谷藤裕明盛岡市長との懇談会。

### 2012年度首長懇談会を行った自治体（実施順）

盛岡市、北上市、釜石市、八幡平市、花巻市、一関市、住田町、軽米町、陸前高田市、矢巾町、大船渡市、紫波町、宮古市、滝沢村、洋野町

## 「原発はもういらない」署名 10万7,179筆を国会へ提出

原発のすみやかな廃止と自然エネルギーへの転換を求めて「原発はもういらない！いわて生協10万人署名」運動に取り組みました。わずか4か月間の取り組みで10万7,179筆と過去最高の署名が集まり、2012年6月5日に国会要請（代表6名派遣）を行い提出しました。



過去最高の署名が集まりました。

平野達男復興大臣（当時）と代表者のみなさん。

## 原発廃止を求め、他団体と力を合わせて

その後も、国の「エネルギー・環境に関する選択肢」意見募集への意見提出や、他団体といっしょに東北電力への要請行動、「さようなら原発 岩手県集会」（500人参加）や学習会（3回198人参加）、公開討論会（110人参加）などに取り組みました。また、日本生協連の呼びかけにこたえ「安心して住める福島を取り戻すための署名」（15,850筆）にも取り組みました。

いわて生協も実行委員会に参加し、「さようなら原発 岩手県集会」を開催。2012年10月13日。



集会終了後はアピール行進も。



## 放射性物質の検査を拡大

2012年4月から、食品中の放射性物質について国の新規規制値が適用されたことに伴い、いわて生協の見解をあらためて整理し、2012年度の対応方針を4月18日の定例理事会で決定しました。この見解と方針に基づいて放射性物質の検査の拡大や、情報提供の強化などに取り組んできました。

2012年度は、アイコープ・アイススタイル商品84品目、産直品49品目、市場流通生鮮品の取扱量の多いもの54品目の検査を行いました。計187品目の検査結果についてはホームページ、共同購入・店舗でお知らせしました。この自主モニタリング検査は、2013年度は、350品目にさらに拡大して実施しています。



2012年8月、いわて生協に検査機器を導入。外部委託と自前での検査を行っています。

## 食事調査の継続や空間線量計貸し出しも

また、組合員の要望にこたえ、岩手県の実地検査や空間放射線量の状況についてのわかりやすい情報提供も行いました。また、日本生協連による「食事に含まれる放射性物質の摂取量調査」を継続し（2回のべ36世帯）、この2年間3回の調査では、いずれも放射性セシウムは「検出限界値（1ベクレル/kg）未満」でした。空間線量計の貸し出しにも取り組み、68人の利用がありました。

### 放射性物質問題Q&A

放射性物質に関してこれまでに寄せられた質問に答えました。

**Q** 新鮮な肉の放射線検査はどのように実施されていますか？  
**A** 新鮮な肉は、大気中の放射性物質の付着による汚染が心配されます。そのため、肉の放射線検査は、肉の放射線測定器を用いて行っています。測定器は、肉の放射線を検出し、その放射線量を測定します。測定器は、肉の放射線量を測定するために、肉の放射線を検出し、その放射線量を測定します。測定器は、肉の放射線量を測定するために、肉の放射線を検出し、その放射線量を測定します。

**Q** 野菜と比べて放射線検査に強化は必要ですか？  
**A** 野菜は、大気中の放射性物質の付着による汚染が心配されます。そのため、野菜の放射線検査は、野菜の放射線測定器を用いて行っています。測定器は、野菜の放射線を検出し、その放射線量を測定します。測定器は、野菜の放射線量を測定するために、野菜の放射線を検出し、その放射線量を測定します。

**Q** 空間線量計の貸し出しはどのように行っていますか？  
**A** 空間線量計の貸し出しは、いわて生協のホームページから申し込みが可能です。貸し出しの手続きは、いわて生協のホームページから申し込みが可能です。貸し出しの手続きは、いわて生協のホームページから申し込みが可能です。

### いわて生協の取り組み

モニタリング対象品目（検査品目）について

2012年度検査品目

品名	検査品目	検査結果
アイコープ・アイススタイル商品	84品目	検出限界値未満
産直品	49品目	検出限界値未満
市場流通生鮮品	54品目	検出限界値未満
合計	187品目	検出限界値未満

2013年度検査品目

品名	検査品目	検査結果
アイコープ・アイススタイル商品	350品目	検出限界値未満
産直品	49品目	検出限界値未満
市場流通生鮮品	54品目	検出限界値未満
合計	453品目	検出限界値未満

### 岩手県の取り組み

食品中の放射性物質検査の継続と強化について

2012年度検査品目

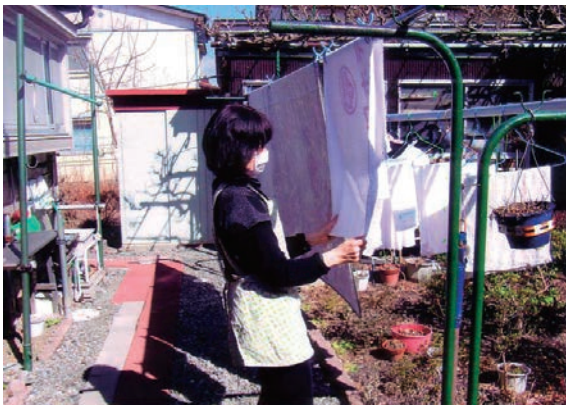
品名	検査品目	検査結果
アイコープ・アイススタイル商品	84品目	検出限界値未満
産直品	49品目	検出限界値未満
市場流通生鮮品	54品目	検出限界値未満
合計	187品目	検出限界値未満

2013年度検査品目

品名	検査品目	検査結果
アイコープ・アイススタイル商品	350品目	検出限界値未満
産直品	49品目	検出限界値未満
市場流通生鮮品	54品目	検出限界値未満
合計	453品目	検出限界値未満

## 「コープくらしの助け合いの会」 年2万時間を超える活動

「困ったときはお互いさま」の気持ちをもとに1992年に発足した、有償ボランティアの会員組織です。高齢者、妊娠中や産前産後の方、障がいを持っている方などを対象に家事・生活援助を行っています。会員数は県内10支部計1,224人と増え、活動時間も2万2,083時間（2011年度1万9,237時間）と増えました。また、2012年度も被災した会員62人の年会費を免除しました。



掃除や洗濯、調理などの家事援助のほか、犬の散歩などの手伝いも。

## 「ふれあいお茶っこ会」は160回 「ふれあいサロン」は23回開催

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共同で開催するミニディサービスで1999年にスタート。2012年度は、盛岡地域の生協店舗や公民館など14会場で160回開催し、のべ2,374人が参加しました（2011年度は13会場113回1,836人）。1回300円の参加費で血圧測定、おしゃべりやリクリエーション、昼食など、楽しい時間を過ごしています。

「ふれあいサロン」は、気軽に立ち寄ってお茶を飲んでおしゃべりしたり、ちょっと一息つける場として盛岡2会場で23回開催し、273人が参加しました。（被災地での「ふれあいサロン」については本誌3ページをご覧ください。）



ベルフ青山でのふれあいお茶っこ会。

## 「コープ子育てひろば」 364組の親子が参加

乳幼児を持つママたちが、子どもといっしょにリラックスできる親子の遊び場。「ホッとできる」「ママどうしのおしゃべりが楽しい」と、364組801人が参加しました（2011年度は294組640人）。宣伝の工夫やNPOとの協力により参加が増えました。また、「お母さんの元気づくり講座」は6企画開催され、92人が参加しました。

### 開催店舗

ベルフ仙北  
ベルフ山岸  
ベルフまつぞの  
ベルフ青山  
コープ関コルザ



ベルフ青山で開催した「コープ子育てひろば・スキップリズム体操」。

## 子ども農業体験「ポラン農業小学校」

「農作業体験を通じて、子どもたちに作物をつくる喜びや大変さ、自然のすばらしさを体験してほしい」と、いわて生協とJAいわて花巻が1999年から開催。西和賀の自然の中でたくさん遊び、



田植え、草取り、生き物観察、稲刈りとコメづくりも体験。

農作物を種から育て、収穫し、食べるまでの体験を行っています。2012年度は25人（2011年度は23人）が参加し、ふだんの学校では得られない貴重な体験をしました。

## 「盛岡さんさ踊り」でパフォーマンス賞

2012年度は総勢261人で「盛岡さんさ踊り」パレードに参加。太鼓と踊りがそろい、まとまりがあったことが評価され、パフォーマンス賞を受賞しました。



各地域での練習の成果が発揮されました。

## ユニセフ募金は243万円、累計1億円を超える

2012年度のユニセフ募金は243万7,202円（2011年度179万2,833円）でした。この2年は東日本大震災支援募金や移動店舗車両購入支援募金の取り組みが重点となり、2010年度と比べて大きく減りましたが、23年間の累計で1億円を超えました。

12月の「ハンド・イン・ハンド募金」は、19会場でボランティア582人が参加。そのうち458人は、地域の16小中高校・団体の子どもたちで、元気よく募金を呼びかけました。



にのへコープの「ハンド・イン・ハンド」。

## 「協同組合」「協同」について理解と共感を広げました

2012年は、国連が定めた「国際協同組合年」でした。「国際協同組合年」を知らせるとともに、「協同」への理解と共感を広げる取り組みを行いました。

各コープの生協まつりや復興支援フェスタでのタペストリー展示やクイズ、広報誌でのお知らせを行いました。また、国際協同組合年岩手県実行委員会に協力し、シンポジウムへの参加、わらび座ミュージカル「おもひでぼろぼろ」開催協力、記念商品「いわてを食べよう！ビーフカレー」の開発・普及に取り組みました。

「おもひでぼろぼろ」盛岡公演終了後、出演者とスタッフで記念撮影。



### 2012年度ユニセフ募金

ファミリー募金(お年玉募金なども含む)	155万6,304円
ハンド・イン・ハンド募金(12月)	83万 196円
ペットボトルキャップ募金	5万 702円
<b>計</b>	<b>243万7,202円</b>
<b>累計(1990~2012年度)</b>	<b>1億 51万8,252円</b>

## 各コープで「ピースアクション」オスプレイ反対の理事会声明も

地域での「ピースアクション」は、10コープで19企画開催され537人が参加、親子映画会などで平和の大切さを考えあいました。また広島市での日本生協連主催「ピースアクションinヒロシマ」へは、2コープから6名の代表を派遣しました。

平和憲法9条を守る運動にも取り組んだほか、垂直離着陸輸送機オスプレイの国内への配備と低空飛行訓練に反対する理事会声明をあげました。



毎年、組合員の代表が原爆投下の地ヒロシマへ。

## 「2020年ビジョン」「第7次中期計画」をみんなの参加で策定

組合員理事も参加する策定委員会と定例理事会での話し合いを中心としながら、「秋のコープのつどい」や「コープ懇談会」、常勤者の職場検討会などで出された意見、広報誌へ寄せられた声も反映し、つくりあげました。また、この計画づくり



「秋のコープのつどい」で自分の願いを短冊に書く組合員さん。

の中では、協同組合についての理解を深める常勤者学習会も行いました。

## より多くの組合員の参加で運営

「初夏のコープのつどい」は2,261か所8,064人、「秋のコープのつどい」は402会場5,528人、「ネットつどい」参加は55人、「お茶会」は1,569か所での開催でした。

計画づくりの場である「コープ懇談会」には2,112人が参加し、こうした話し合いの場への組合員参加は2万399人。組合員数が増えても、組合員の1割の参加を確保しました。



「コープ懇談会」ではグループごとに生協への期待や意見を出し合いました。

## 店舗事業

## 高齢者や被災地の買い物支援

2012年度も、高齢者への買い物支援を引き続き強めました。無料お買い物バスは、盛岡地域で3万700人、2012年7月からスタートした宮古・山田地域は4,400人、マリンコープドラと宮古駅間のシャトルバスは5万2,000人の利用があり、合計8万7,100人にご利用いただきました。宮古のお買い物バスは、組合員の要望を受けて2013年4月からコースを変更して運行し、利用が増えています。

店舗でのお買い上げ品をお届けする配達サービスは、2万8,000人の利用がありました。



毎日1日、15日の5%値引きの日は、特に利用が多い「配達サービス」。

## 表示を見やすく改善

売り場の商品名や価格の表示を、より見やすく改善しました。また、高齢者など小さな文字が見にくい方へのサービスとして、コープアテルイ、ベルフ山岸・青山・牧野林に「ルーペ付きカート」を各20台導入。「商品の表示が見やすくなった」と好評で、今後全店に導入する予定です。



ルーペ付きカートを使う組合員さん。

## お店の環境活動を学ぶ「エコエコ探検隊」

生協のお店のエコな取り組みを楽しく学ぶ「エコエコ探検隊」は4回行われ、47人が参加しました。

リサイクル回収や節電、レジ袋節約、生ゴミ堆肥化、地場野菜の取り扱いなど、多彩な取り組みを学び、「家庭でもあらためて節電について話し合いたい」といった感想も出されました。



コープ高松での「エコエコ探検隊」。野菜は輸送距離が短いからエコ！。

## 店舗でのリサイクル回収量は過去最高を更新

いわて生協の店舗は回収品目が多く、組合員のリサイクル活動の拠点となっています。2012年度の年間回収量総計は約288トンと、過去最高を更新しました。また、2011年からスタートした使用済み揚げ油の回収は、2012年度は7,950ℓ（500mlペットボトルで15,899本）でした。このほか、盛岡市内店舗では、市に協力し蛍光管、乾電池、小型家電（コープ高松除く）の回収も行っており、廃棄物削減に大きな役割を果たしています。



ベルフ青山での「エコエコ探検隊」でリサイクル回収について学ぶ子どもたち。

## 商品や店舗運営に関する「組合員の声」集約

組合員の声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2012年度は9,133件寄せられ、品切れや価格間違い、接客対応に関する苦情が前年に比べて減りました。

## 組合員の声の件数

区分	2012年度	2011年度	増減
商品・運営に関する苦情	617	712	-95
おほめ・感謝の声	917	1,168	-251
意見・要望	1,791	1,903	-112
お問い合わせ	5,646	5,086	560
その他	162	194	-32
計	9,133	9,063	70

## 共同購入事業

### 7年連続で1万人以上の利用者拡大に

沿岸被災地をはじめ買い物が困難な地域でお役立ちできるよう、利用者拡大に取り組みました。重点的に取り組んだ沿岸地域では4,445人が加入し、毎週の利用人数は、平均で5万5,305人（最高は5万8千人）と伸ばしました。

### 個配優遇制度を拡充、半数以上が対象に

個配優遇制度は、赤ちゃんがいる方や高齢者、障がいのある方などを対象に、個配の配達手数料を1回100円（通常240円）にするものです。2010年度には介護優遇、2011年度には被災者支援サービスもスタート、そして2013年度からは「赤ちゃん優遇」の対象期間を拡大（3歳まで⇒6歳まで）して名称を「子育てサポート値引き」に変更。「3歳を過ぎても、子ども連れの買い物は大変なので、期間延長はうれしい」と喜ばれています。

優遇対象者(配達料金が1回100円に)	利用人数	割合
母子手帳が発行されてから満6歳までの子どもがいる方	2,844人	8.1%
70歳以上の単身の方、または夫婦世帯で一方が70歳以上	6,859人	19.4%
障がい者手帳をお持ちの方がいるご家庭	3,500人	9.9%
介護認定を受けている方がいるご家庭	1,045人	3.0%
宮古市田老、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の方※新規の適用は終了	4,841人	13.7%
計	19,089人	54.1%

### 見やすいチラシ、ニーズにあったチラシへ

毎週、食品・日用品を案内する「Week」紙面の注文番号を大きくし、見やすく改善。2012年度からカロリー表示も開始し、組合員の声に応じています。また、「シニア・ミドル世代の衣料品・介護カタログ」や「ベビーカタログ」など9カタログについて、希望する方への配布をスタートしました。注文用紙についても、2013年度から、個人ごとに過去に利用した商品の欄を色付けし、わかりやすくしています。



注文書への色付けがスタートしたこと  
を説明する共同購入班担当。

### 「夕食宅配サービス」実施にむけて

高齢化が進み、特に食事づくりや買い物に困る方が増加する中、栄養バランスのとれた食事を毎日お届けすることで組合員の暮らしを支えようと、「夕食宅配サービス」の実施にむけて準備をすすめました。2013年6月24日から盛岡市・滝沢村の一部でスタートし、2013年度中に県北（いのへ・久慈センター）を除く地域で実施する予定です。



盛岡北コープのコープ総代会で  
見本を展示して紹介。

### 「高齢者見守り活動」スタートにむけて

共同購入や夕食宅配サービスなどのしくみを活用し、行政と連携しながら高齢者を見守る体制をつくろうと、検討・準備をすすめてきました。共同購入などの利用者で、65歳以上の一人暮らしあるいは夫婦世帯が対象で、配達の際に気になることや異変があった場合、各自治体の窓口へ連絡します。準備が整った自治体から、協定書を締結し、取り組んでいきます。

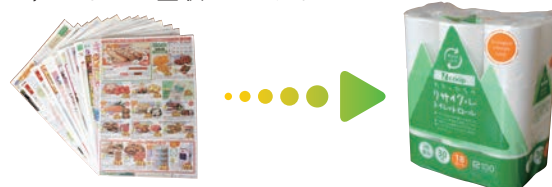


2013年6月3日、盛岡市と協定を結びました。

### 共同購入チラシ発行量とほぼ同量を回収

使用済み揚げ油の回収についてお知らせを強め、2011年度の約2倍の1万843ℓ（500mlペットボトルで2万1,687本）を回収しました。

「毎週毎週届くチラシがもったいない」との声を受けて1997年に開始した、共同購入チラシ回収リサイクル。回収したチラシは「アイコープわたしたちのリサイクルトレイトロール」（一関市・上山製紙で製造）の原料になっています。2012年度はチラシ発行量2,617トンの97.9%の2,563トンを回収しました。



### 共済事業

#### 保有件数10万件を超える

改善した《たすけあい》女性コースへの支持と、終身共済《ずっとあい》の提案・普及も反映し、年間の新規加入が初めて1万3千件を超え、保有件数が10万2,810千件となりました。4店舗に設置している共済カウンターでは、共済金請求や登録内容の変更などの対応が1店舗1か月当たり69件で全国トップに。お役立ち度が全国平均（34件）の約2倍の水準となっています。

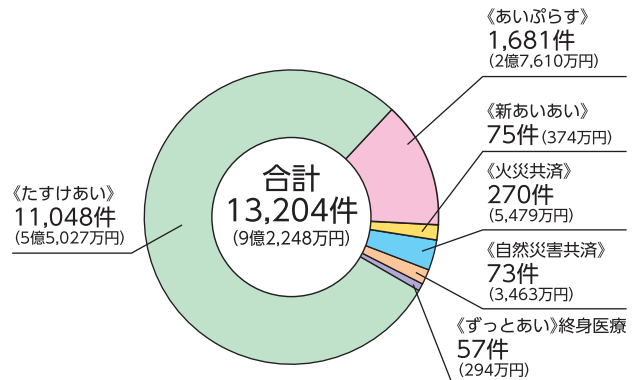


2013年度は、コープ共済のキャラクター「コーすけ」の着ぐるみも登場。普及に一役かっています。

#### お知らせを継続し、震災による共済金・お見舞金をお支払い

震災による共済金・お見舞金のお知らせ、手続きに引き続き取り組みました。2012年度には323件5,529万円のお支払いを行い、2年間の合計は6,546件16億1,589万円（支払額の約5割）となりました。

#### 共済金・見舞金の支払件数（2012年度）



#### 共済保有件数（2013年3月20日現在）

種類	2012年度	2011年度	前年比
《たすけあい》	68,787件	67,338件	102.2%
《あいぶらす》	26,633件	24,526件	108.6%
《ずっとあい》終身生命	443件	199件	222.6%
《ずっとあい》終身医療	1,513件	455件	332.5%
《火災共済》	5,037件	4,822件	104.5%
《新あいあい》	388件	426件	91.1%
《あいあい》※募集終了	9件	21件	42.9%
<b>合計</b>	<b>102,810件</b>	<b>97,787件</b>	<b>105.1%</b>

### 介護・福祉事業

#### 居住系介護事業の準備をすすめました

ケアマネジャーの欠員が続いたため利用者の拡大が進まず、居宅支援（ケアプラン作成）と訪問介護は計画に届きませんでした。福祉用具の利用は2,000人を超えました。また、高まる介護需要への対応強化をめざし、居住系介護事業（サービス付き高齢者向け住宅）の開発検討に着手しました。



ケアマネジャーやヘルパーの接遇向上をめざした学習会も。

#### さらに役立つ「困った時のお助けブック」に改訂

毎日の暮らしの「困った！」に役立つ、いわて生協の各種事業・サービスをまとめた「困った時のお助けブック」（盛岡地域が対象）。2012年度は、共同購入の個配手数料優遇や店舗お買い物配達サービス、暮らしの助け合いの会などこれまでの情報に加え、配達灯油の高齢者対応（階上配達）などを追加し改訂しました。「秋のコープのつどい」などで組合員に配布し、より幅を広げて「福祉の相談窓口」の役割を果たしました。



生協の「暮らし支援」の内容がよくわかります。

#### 2012年度の利用実績

事業	利用者数	前年比
居宅介護支援（ケアプラン）	2,804人	86%
訪問介護	1,114人	109%
福祉用具貸与	2,134人	117%



## 葬祭事業

### セリオホール5館で910件を施行

セリオ葬は「人生最後の儀式をまごころ込めて」「納得できる適正価格で」という組合員の願いから始まりました。高齢化が急速に進む中で、年々、組合員のセリオ葬への期待が県内全域で高まっています。2012年3月にセリオホール釜石をオープンし、前年に事業開始したセリオホールみやことあわせて沿岸地域の組合員の要望にこたえました。



### 滝沢村にもホール開設し、盛岡にもう1館を準備

2012年度、セリオホール牧野林（滝沢村）とセリオホール仙北（盛岡市）の開設を決定し、準備をすすめてきました。2013年6月5日、セリオホール牧野林が事業を開始、セリオホール仙北も秋の事業開始をめざします。

#### 2012年度の利用実績

セリオホール中野	249件
セリオホールみたけ	242件
セリオホール緑が丘	130件
セリオホールみやこ	174件
セリオホール釜石	115件
合計	910件

(2011年度732件)



セリオホール牧野林内覧会（2013年6月1日・2日）。

## 住まいと暮らしのサービス事業

### 組合員カード提示優待でお役立ち

住まいと暮らしのサービスセンターは、おもに地元の業者と幅広く提携してサービスを提供しています。2012年度は、「住まい」では断熱効果の高い「エコガラス」の利用は計画に届きませんでした。太陽光発電は施行件数を伸ばしました。「暮らし」では、引き続き組合員カード提示優待の提携が人気で、「眼鏡市場」や、新たに提携した「洋服の青山」「補聴器」などが好調でした。



マリンコープドラ内に太陽光発電の常設展示場をオープン（東日本ソラナ）。

#### 主なサービス内容

- エクステリア全般
- エコガラス全般
- 配管クリーニング
- ガス器具、石油給湯器
- シロアリ対策
- 太陽光発電
- 引越し各社あっせん
- 車検、タイヤ
- めがね、補聴器
- ストープ分解掃除
- ピアノ調律
- 家電全般

### 南昌荘が「もりおか暮らし物語賞」を受賞

盛岡市が2007年度から毎年実施している「もりおか暮らし物語賞」を、2012年度、南昌荘が受賞しました。これは「盛岡ブランド」の推進に寄与し、その功績が顕著な人や団体に与えられるもので、「南昌荘の保存・活用による、まちなか観光づくりの推進」が評価されました。

南昌荘は、盛岡市「保護庭園」「保存建造物」の指定を受けており、いわて生協10周年記念事業として2000年に一般公開をスタート。以来、多くの市民や組合員の安らぎの場として、また様々な催し物の会場として利用され、2012年度は1万1,906人が入園。累計入園者数は22万4,213人となっています。

- 休館日/月・火曜日 年末年始
- 開館時間/10時～17時（12月～3月は16時）
- 入園料/大人200円 小・中学生100円

明治18年頃、盛岡出身の実業家瀨川安五郎の邸宅として建てられました。保存を望む多くの声に応じて、いわて生協が保有、維持管理と公開を行っています。



「もりおか暮らし物語賞」受賞者・団体といっしょに。受

